

登壇者紹介

今村 登 (いまむら のぼる)／日米若手障害者交流セミナー研修報告・コメンテーター



1964年長野県飯田市生まれ。1993年に不慮の事故にて頸髄を損傷し、以来電動車いすユーザーとなる。2002年に仲間と「どのような障害があっても自分の住みたい地域で自立生活を送れるようにする事」を目指し、NPO法人自立生活センターSTEPえどがわを設立、事務局長に就任。現在、全国自立生活センター協議会(JIL)副代表、DPI日本会議事務局次長等を兼任。また、障害者の自立生活運動を通じて見えてきた問題を切り口に、他の分野の問題点との共通点を見出し、他(多)分野の人々とのつながりを作っていく活動も手掛け始めている。

所属団体

- NPO法人自立生活センターSTEPえどがわ(<http://www.step-edogawa.com/xoops/>)／事務局長
- 認定NPO法人DPI日本会議(<http://www.dpi-japan.org/>)／事務局次長

白江 浩 (しらえ ひろし)／パネリスト



1956年大阪市生まれ。中学生の時に、被爆者の人々と出会い、差別・戦争・貧困との問題に深く関わる。高校生の時にはじめて筋ジストロフィーの人と出会い、難病・障害問題にも深く関わる。大学在学中に筋ジストロフィーの山田3兄弟と知り合い、映画「車椅子の青春」制作・上映運動に参加。以来、重度の障害・難病をもった人々と関わりながら生活をする。1981年から国会議員秘書等を務める。1997年より、社会福祉法人ありのまま舎常務理事代行など、ありのまま舎の要職を歴任し、2008年より社会福祉法人ありのまま舎常務理事。

所属団体

- 社会福祉法人ありのまま舎(<http://arinomamasya.sakura.ne.jp/>)／常務理事
- 宮城県難病相談支援センター(<http://mpcarinomama.web.fc2.com/>)／センター長

及川 智 (おいかわ とも)／コーディネーター



1978年岩手県盛岡市生まれ。出生時のトラブルにより、脳性マヒとなる。間もなく、両親の地元である宮城県へ転居。肢体不自由児施設退所後に「兄弟と同じ学校に通いたい」との思いから、養護学校を経て、地元の小学校へ転入。学校や家の近くでの関わりを通して、「障害者と地域社会」というテーマに興味を持ち、福祉系大学に進学。その後、「障害があっても地域の中で暮らすこと」を掲げる自立生活センター・CILたすけっこで活動後(～2013年5月)、2014年6月に社会福祉法人ありのまま舎入舎。現在に至る。

所属団体

- 社会福祉法人ありのまま舎／活動センター・ケアセンター長(<http://arinomamasya.sakura.ne.jp/>)

高橋 愛実 (たかはし めぐみ)／日米若手障害者交流セミナー研修報告・パネリスト



大崎市古川出身。2013年3月に東北福祉大学を卒業し、「CILたすけっこ」のスタッフとして活動中。ウエルドニッヒ・ホフマン病という障害から、電動車椅子で生活。高校時代から約8年間仙台市の西多賀病院で生活。2014年3月から長年の夢であった地域でも自立生活を始めた。音楽が大好きで、友人たちと仙台で開かれているイベントで歌っている。今後はピア・カウンセリングやサロン活動を初め、障がいを持っている方々が地域で楽しく生活しやすい町づくりに貢献したい。

所属団体

- CILたすけっこ(<http://blog.canpan.info/tasuketto/>)